

# ケアしあう社会をつくる

津 富 宏

静岡県立大学

NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡

一般社団法人静岡学習支援ネットワーク

学生助けたいんじゃー

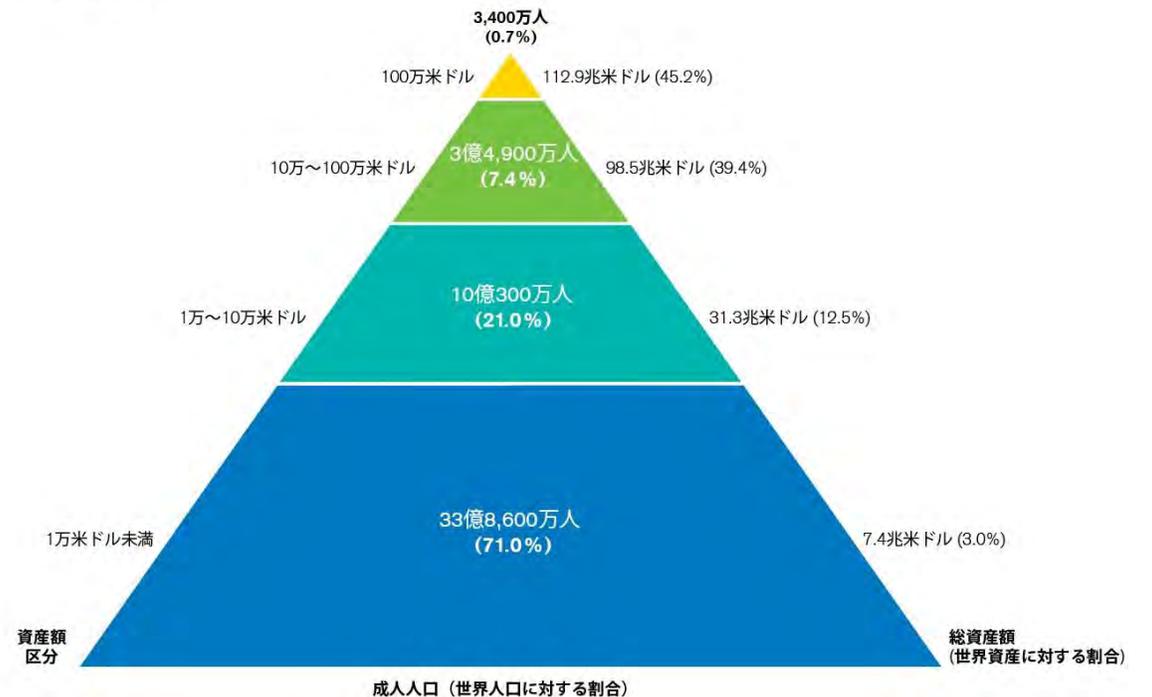
ケアを奪われた私たち

# 社会的排除の時代

脱工業化社会における  
中産階級の凋落

生きづらさの時代

世界の富のピラミッド

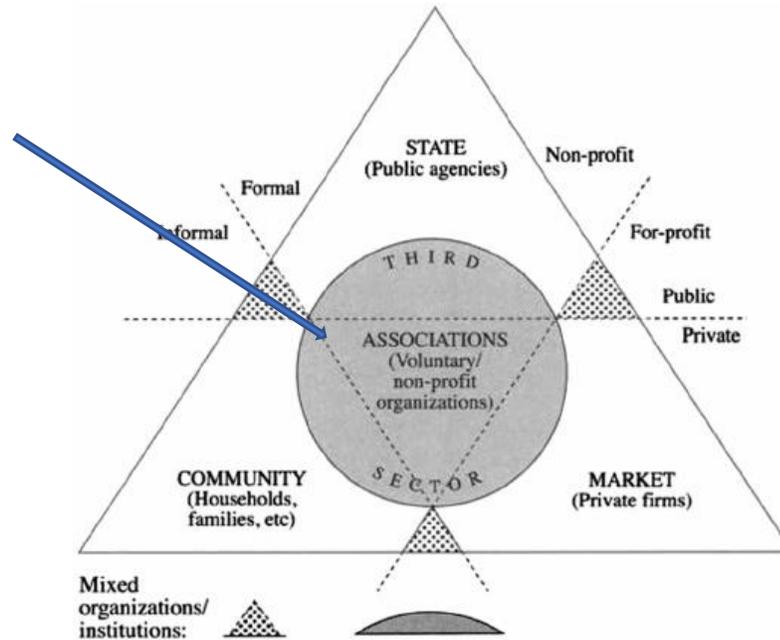


出典 <http://editor.fem.jp/blog/?p=1531>

# ペストフの三角形

国家—再配分

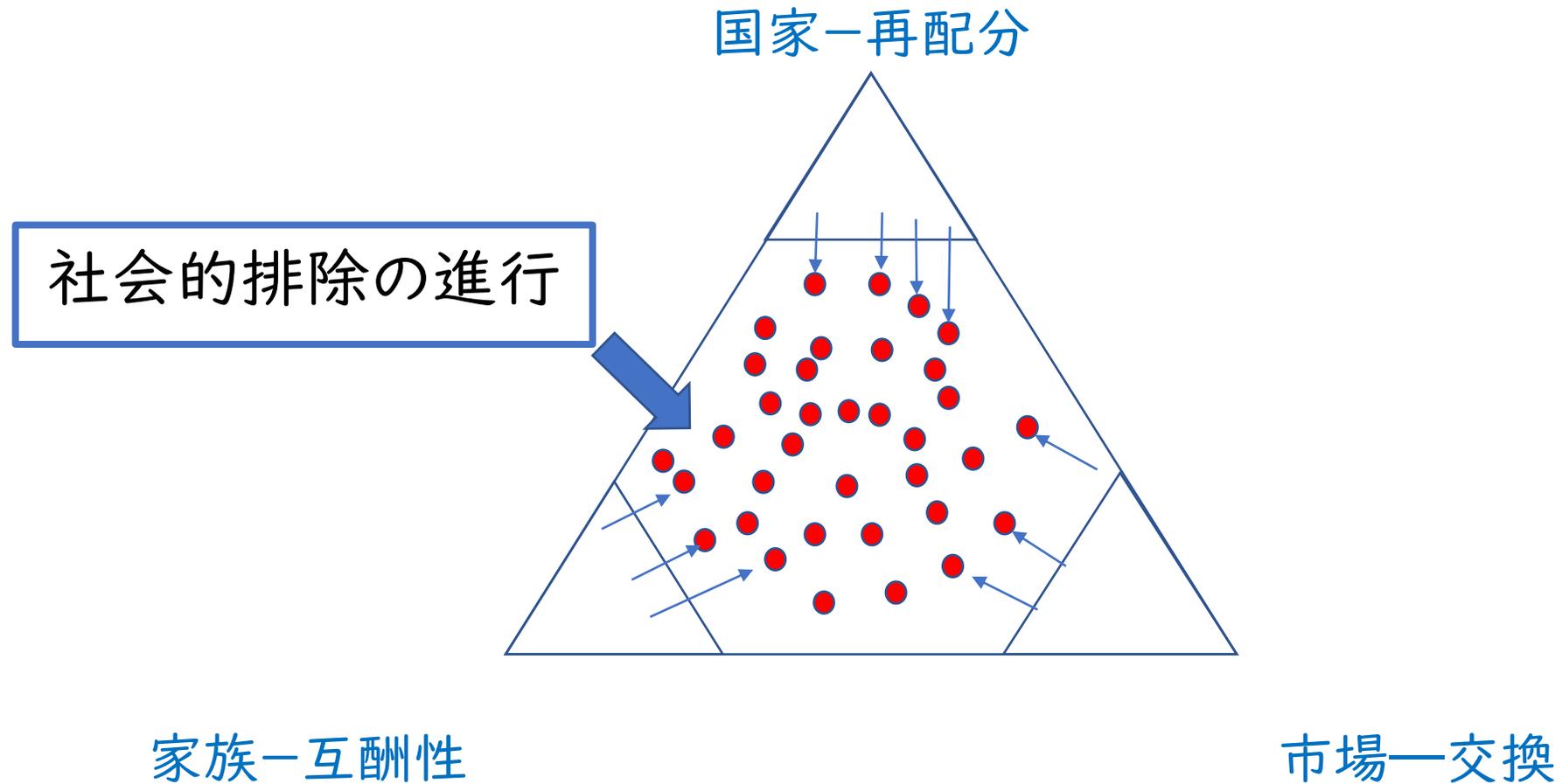
北欧では  
協同組合が  
隙間を埋める  
という論



家政—互酬性

市場—交換

# ケアを奪われた私たち



脆弱な者としての私たち

いし・かわら・つぶてのごとくなるわれら（親鸞『唯信鈔文意』・『真宗聖典』）

貧しく小さくされている人たちを通して神が  
はたらかれることを信じて…その人たちと連  
帯する（本田哲郎『釜ヶ崎と福音』）

最近、イギリスから帰ってきた学生から聞いた話

ケアを社会の中心に置く

ケア・コレクティヴ [著]  
岡野八代+富岡薫+武田宏子 [訳・解説]

# ケア宣言

相互依存の政治へ

The Care Manifesto  
The Politics of Interdependence

大月書店

アネット・ベアーは・・・『もうひとつの声』は、これまで男性哲学者たちが論じてきた正義論が語ってこなかったにもかかわらず、その正義論が前提にしてきた（当てにしてきた）、ある事実を明らかにしている」と論じている。それは、男性中心的に捉えられた生活スタイルにおいて女性の所与とされ、養育者、ケア提供者、内助者として彼女たちが担ってきた活動を、男性たちは経済的な枠組みと同じように、「そのケアを当然視し、あるいはその価値を貶め」てきたという事実である。(p. 195)

…そもそも社会を構想する際に前提となる、(心身ともに)自立し、(意思を貫徹し、自己立法に従い続けることが自己実現だと信じていることができる)自律した個人といった社会が求める個人像に、フェミニストたちは根本的な批判の目を向けるようになる。彼女たちは、自立／自律していることを自認した個人こそが、ケアを担う者たち(≡女性)に依存しつつ、彼女たちを貶めてきた歴史と現状を批判するだけでなく、個人像を脆い、傷つきやすい人に定位し、他者とのケア関係のなかでようやく自尊心や諸価値を体得していくプロセスとしての個人化の途上にある人から、社会を構想するようになる(p199)。

この世界は、ケアを顧みないこと（無関心、無配慮、不注意、ぞんざいさ）が君臨する世界です。（p.1）

Our world is one in which carelessness reigns.

たくさんの難民の溺死や、身近な通りにホームレスが今までになく増えているといった大惨事について耳にすることは、もはや日常となりました。「ケアしない」という行為のほとんどは無思慮のままに行われます。私たちのほとんどは、必要なケアなしに他者が放置されているのを見て、実際に喜んでいるわけではないし、残酷で破壊的な衝動を持っているわけでもありません。しかしながら、ケアする能力、実践、そして想像力に課せられた制限に対し、私たちが異議を申し立て損ねていることは確かなのです。(p. 8)

そうではなくもし生活の中心にケアを置いてみるならば、一体何が起こるのかと今こそ問うべきなのです。(p. 8)

What, we now ask, would happen if we were to begin instead to put care at the very centre of life?

「ケア」とはまた、生命の福祉と開花にとって必要な全ての育成を含んだ、社会的な能力と活動でもあるのです。とりわけ、ケアを社会の主役の位置に立たせることは、私たちの相互依存性を認識し、抱擁することを意味しています。

この宣言の中ではしたがって、「ケア」という用語を、家族ケアや、ワーカーたちがケア・ホームや病院で、そして先生たちが学校で実践してる直接手をかけるケア、そしてその他のエッセンシャル・ワーカーたちによって提供されている日々のサービスを含む、広範な意味で使用しています。…すなわち様々なものを貸し出すライブラリーの運営、つまり協同組合的な代替案である、連帯経済の構築に関わる活動家たちによるケアや住居費を低く抑えたり、化石燃料の使用を抑え緑地を拡大させようとしたりする政治的な政策などです。

ケアは政治的、社会的、物質的、そして感情的な条件を提供するという個人的かつ共同的な私たちの能力であり、そうした条件によって、この地球に生きる人々とその他の生物のほぼすべての生命が、この地球とともに生きながらえ、繁栄することが可能になるのです。

ケアしあうコミュニティをつくる

私の考え

社会的包摂概念のつくり替え

# 隙間にある養分を分解し、再生しながら 新たな秩序をつくりだす

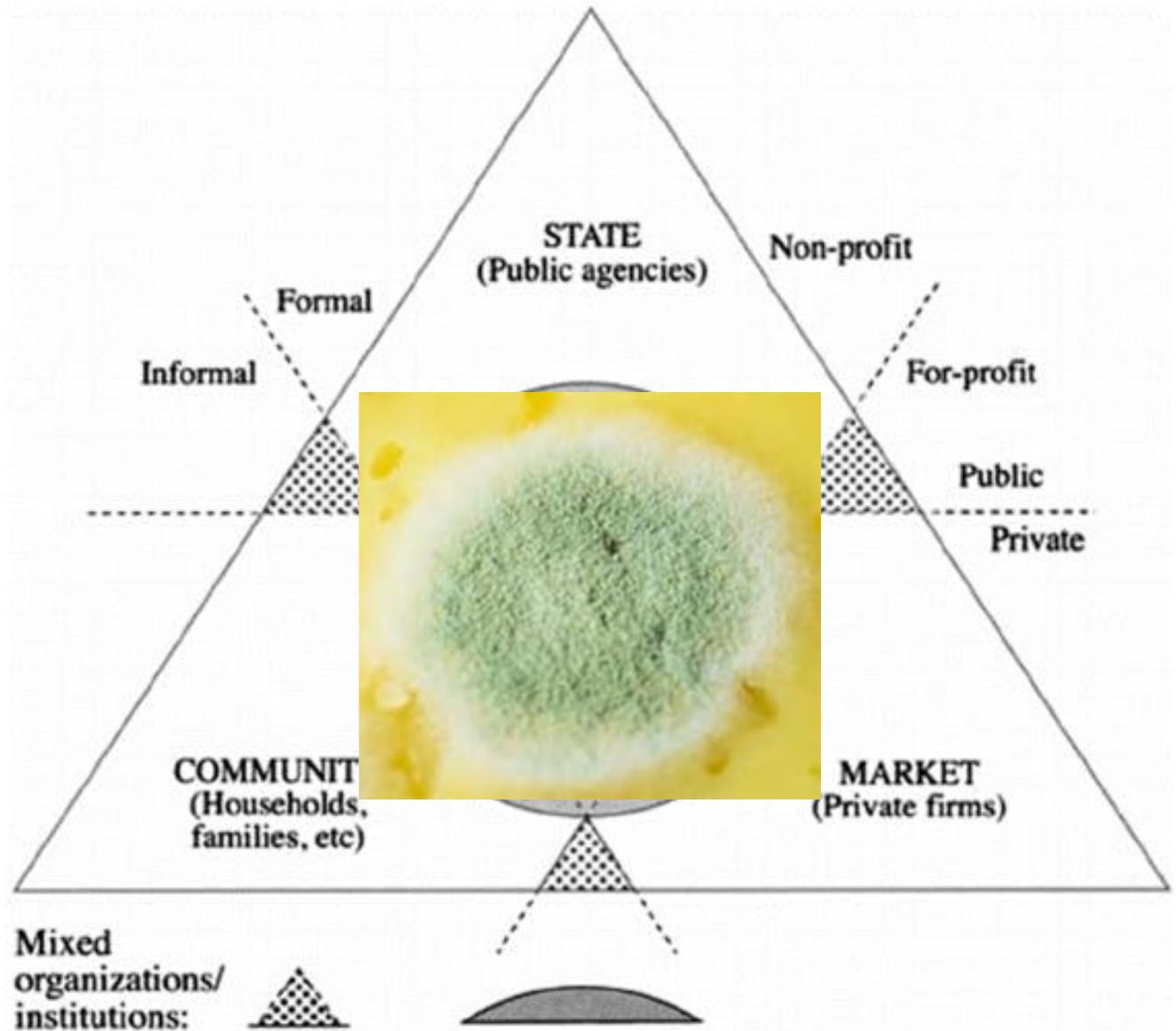


この本は、「とるに足らない」とされてきたものたちをめぐるものだ。どこにでもありそうな、取り立てて特徴的なものもないように見える地域が舞台だ。(p.14)

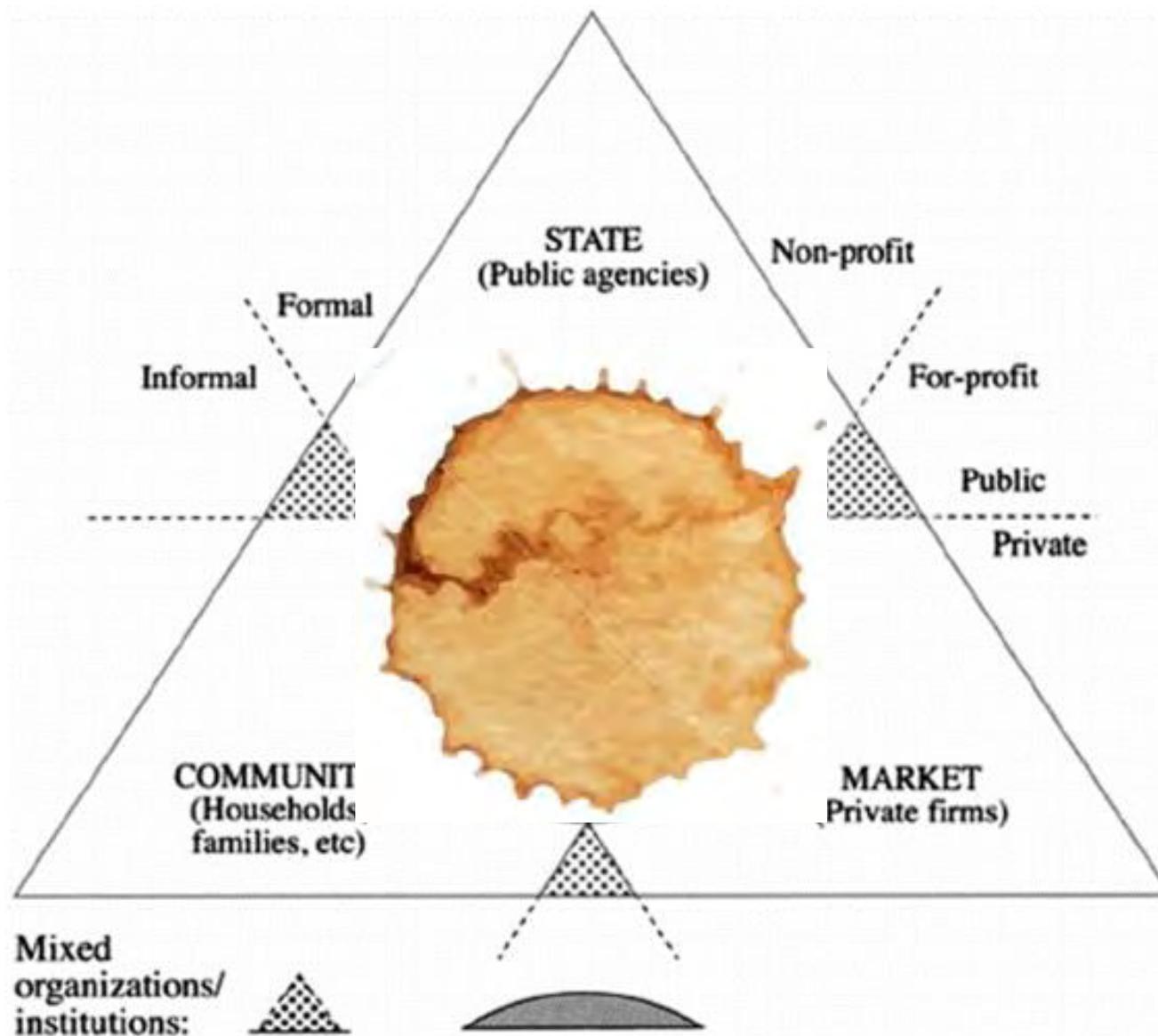
東京の<果て>にある見沼田んぼに流れ着いたものたちを／と分解しながら、この時代を生き抜くためのよりどころにしていく(p. 379)

猪瀬浩平『分解者たち』から

はびこりながら  
増殖し  
関係性を作り直す



染みわたりながら  
浸透し  
関係性を作り直す



# 解放区をつくる

「回復」とは（市川、2019）

- ・薬物を使わないことではない
- ・問題を自分一人で解こうとしないこと
- ・仲間となること 孤立から引き出されること
- ・仲間を支える経験をすること
- ・生成的目標を持つこと
- ・新しい人生を手に入れること
- ・自己ラベリングすること
- ・アディクトと「自認」すること

## 関係性を作り直す

「協働モデル」(吉間、2019)

伴走者と当事者のゆるやかな関係性を基礎として、お互いの無力さや弱さを受け入れて自分から変わるという実践を第三者を巻き込んで行っていく相互変容過程(p. 47)

・・・当事者と支援者とを切り分けず、両者の立場は絶えず入れ替わったり揺れ動いたりしていることを受け止める(p. 49)

- 相互扶助と相互依存=相互変容へ
- 伴走者(支援者)の側は「正解」を持たない。

境界線を引き直すことにより  
秩序をつくりなおす

## 教育学から トランスクルージョン

ランシエールは、二重の動きが必要であると示唆している。すなわち、「包摂」は、私が「位置の移動」と呼んだもの、つまりアウトサイダーの場所からインサイドの場所に移動することにかかわるだけではなく、同時に、「地平の意向」つまり包摂と排除の緊張が高まる「地平」そのものを再定義することを必要とする。…包摂とは、排除されていることがすでに知られている人びと、すなわちすでに特定の（ポリスの）秩序の中にアイデンティティを有している人々を連れてくるプロセスに関わるものではなく、アイデンティティ・場所・空間の再配置と再定義にかかるというものであるということである。（ビースタ，2021）

## 障がい学から クリップ理論

ただし、「私はクィア／クリップである」と表明することによるアイデンティフィケーションが、固定化されたアイデンティティに安らうことではなく、むしろそれを絶えず不安定化させることが重要である。バトラーがクィアという語を用いるというパフォーマンスな実践を、異性愛規範を攪乱する契機とみなしたように、クリップという語を用いることは、私は健常者である／障害者でないという線引きそのものを攪乱する契機となりうるのである。このアイデンティティの攪乱という発想は、近代的権力によって生み出される健常者／障害者というアイデンティティ・カテゴリーを受け入れた上で様々な法的・社会的権利を体制側（健常者側）に要求する従来の政治戦略とは異なって、体制側からの「障害者」という一方的なラベリング自体を拒否することで、法律や社会制度よりも根本にある健常者中心主義的な価値基準を暴露し動揺させるという、新たな戦略を障害運動にもたらしている。（辰巳、2021）

ケアしあうコミュニティをつくる

大学での取り組み

一つの方法

コミュニティ・オーガナイズジング

コミュニティ・オーガナイズング（CO）とは、当事者の連帯によって、達成したい課題に関する意思決定者から「YES」を勝ち取るための社会運動の手法

新型コロナウイルス感染症の流行によって**経済的**または**精神的負担**が学生にかかる。

2020年7月から県大生への**無償の食料支援**と**ヒアリング**開始。

## ＝『たべものカフェ』の開始

(学生ボランティアセンター(県大公認委員会)が運営を担当)

### ☆食料配布

栄養バランスに配慮した食料

→学業やバイトで忙しい学生が

健康に学生生活を送れるようにするため

### ☆ヒアリング

同じ学生の目線で悩みを聞き、お話をする

→困っている学生本人の希望に沿って必要な支援に繋げるため

### ☆孤立化の防止

利用者の中で、知り合いになってもらったりして、友人になってもらう

(あるいは、スタッフも友人になる)



ヒアリングの様子

## 学生助けたいんじゃー（今日、午後登場）

大学の取組を改善するための提案を行う

- ① 根拠づくり
  - ・学生生活についてのヒアリング
  - ・キャンパスソーシャルワーカーについての調査
- ② 大学当局や関係者への発信・働きかけ
  - ・学内での報告会
  - ・同窓会（卒業生）との懇談
- ③ 学生に向けた発信・働きかけ
  - ・授業
- ④ 県当局への発信・働きかけ
  - ・県会議員との協働した提案
  - ・総合計画へのパブリックコメント
- ⑤ 外部への発信・働きかけ
  - ・Twitter、noteでの発信
  - ・講演（たとえば、今日）



変えなくてはいけないという使命感・正義感、当事者意識

- ・もしこの活動が「だめだ!」と言われたとしても困っている人を置き去りにすることはできません。
- ・活動を通じて感じたのは、常に歩み続けなければならないことです。私たちは困っている学生の代弁者という立場です。私たちが学生の声を発信すること、活動することをやめてしまえば学生の声はどこにも届かず現状は何も変わりません。どんな壁にぶつかろうとも、私たちには待っている人がいるのだから歩みを止めてはいけないのだと思います。

## 社会は変えられるという効力感

・「あれっ?」と思ったことはそのままにしてはいけない、動こうとすれば動けるということを学べるという点で意味があると思います。動けると分かったため、「おかしい、どうにかしなくてはいけない、どうにかしたい」という想いはそのままにしておくのはもったいないと感じました。最初は少しずつでも積み重ねていけばできるのだと学びました。

# 当事者の置かれている状況への理解と、アドボカシー（発信）の重要性

- ・親にも頼れない人がいること、実家暮らしなのに全て自分で頑張らなければならない人、いろんな人に出会いました。この活動をしていなかったら私は知らないで生きていました。
- ・「困っている」と発信することは容易ではなく、周囲の環境・サポートが必要だと感じました。そして、その「困っている」は見えづらい・・・すこしでも「見える」ように「困っている」を発信することが大事です。

## 賛同者を増やすことの大切さ

・活動を続けるうちに賛同してくれる人、応援してくれる人が増え、行動が拡散される事によって私たちでは届かなかった部分にまで情報を届ける事ができるようになりました。自分が知ってしまった問題を見て見ぬふりをするのではなく、それぞれが少しずつ行動する事によって、波紋が広がりがてそれが合わさって、大きな動きになると思います。

## 社会問題としての認識

- ・貧困は本人の努力不足のように言われてしまうと、悔しく感じます。そこに存在しているのは本人の問題だけなのではないでしょうか。学びたいと思う人が学び続けられる、そんな環境を大学や社会が作っていく必要があると思います。
- ・困っている学生一人一人に向き合える仕組みを、大学や社会の中に拡充させることが大切だと思います。「悩んでいる学生は少数だから見過ごしていい」という考えは、長い目で見れば社会のためにならないと思います。

## 「仲間」への言及

・(活動してよかったのは)仲間がたくさん出来たことです!  
たべものカフェで出会った方(利用して下さった方)、ボランティアとして一緒に活動してくれる方…たくさんの素敵な仲間に出会うことができました。仲間がいるから辛い時に踏ん張れますし、辛さや悔しさも同じ立場で共感することができます

・仲間の存在、道標、力になる。あったかい気持ちになるんだよなあ。ひとりじゃできないけれど、みんなが居れば出来ることがたくさんあった!!

ここでつくられているのは、ささやかな私たちではあっても、つながりあいながら、権力関係に挑戦し、社会を変革できる「主体」

ケアしあうコミュニティをつくる

地域での取り組み

もう一つの方法

静岡方式

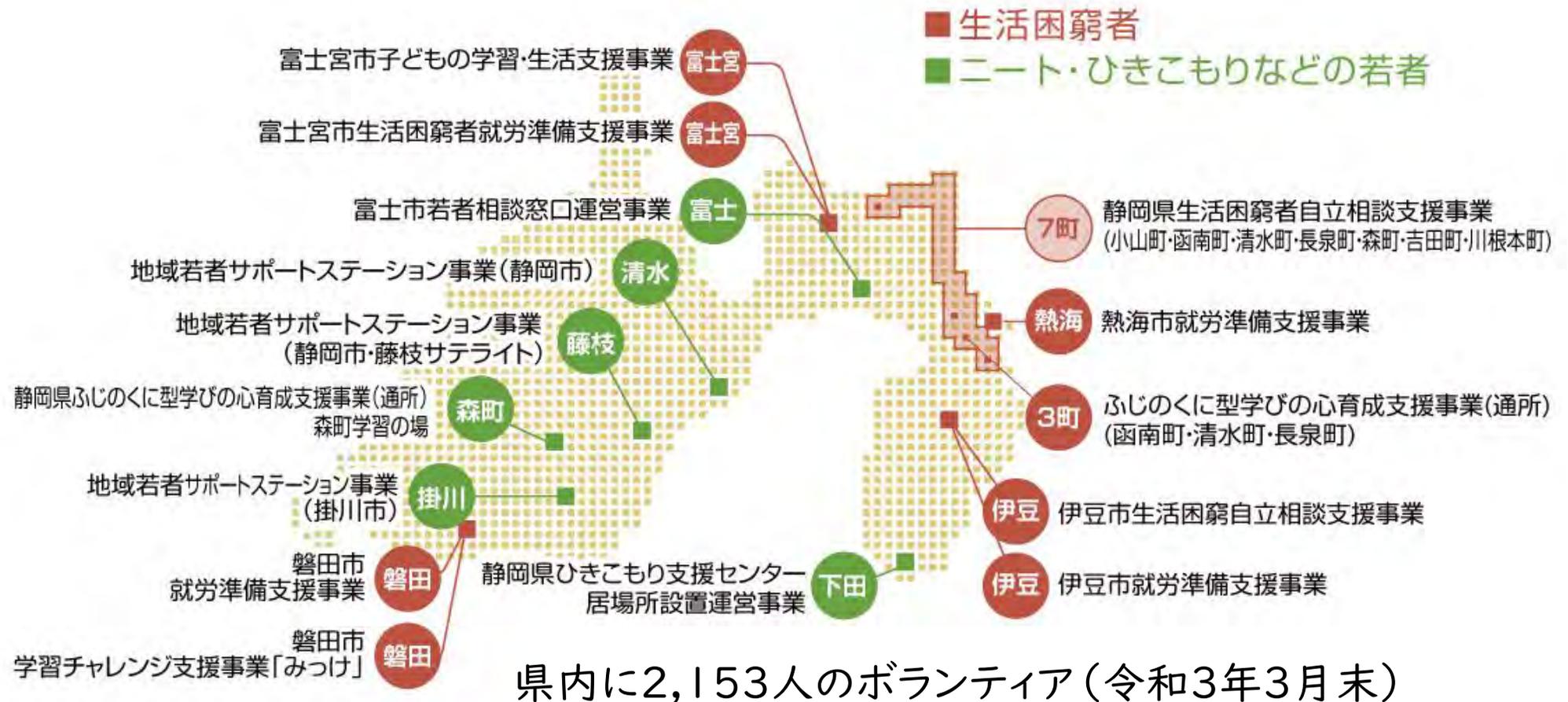
(困りごとを萃点とするオーガナイズング)

# 青少年就労支援ネットワーク静岡 岡の理念

青少年就労支援ネットワーク静岡は、静岡県内の働きたいけれども働けない人びとに対して、市民のネットワークによる伴走型の就労支援を提供することを通じて、働く喜びを分かち合える、相互扶助の社会をつくることを目的とします。



	H28	H29	H30	R1	R2	R3
総対象者数（就労支援・学習支援・生活困窮者自立支援・ひとり親支援など）	1,255人	1,178人	748人	835人	2,034人	830人
うち 就労希望者数	869人	761人	581人	640人	1,007人	612人
うち 就労者数	551人	393人	437人	480人	524人	406人



# 1 相手を信じる

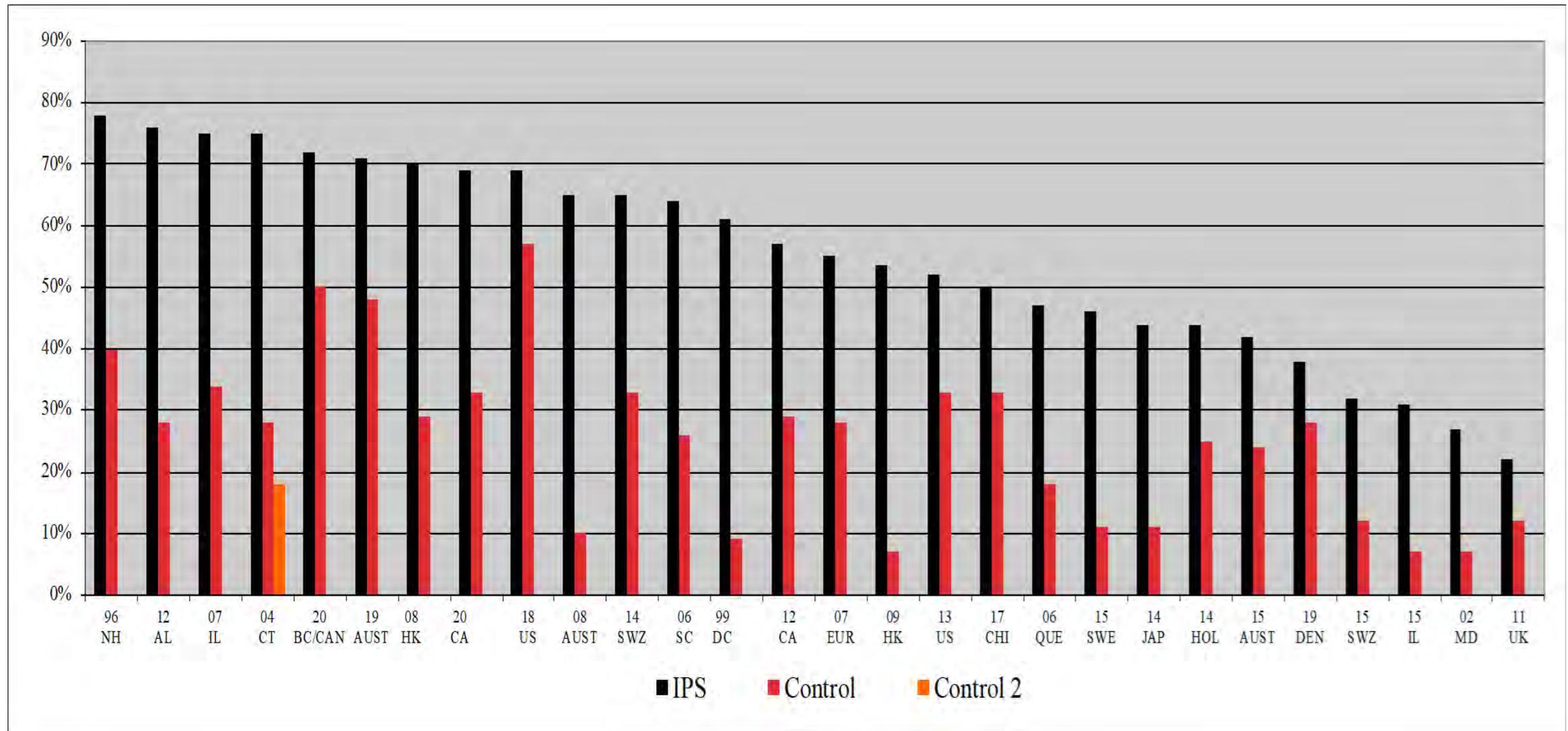
精神障がい者の就労支援の仕方

IPS (Individual Placement and Support)の原則

1. 一般雇用（最低賃金）を目指します
2. 働きたい人はどんな人でも支援します
3. 医療の支えを得ます
4. 本人の好みを尊重します
5. 訓練やカウンセリングではなく、ただちに職探しを始めます
6. 本人の好みに沿って、地域の職場を探します
7. 本人の望む限り、ずっと支援します

# 相手を信じることの効果

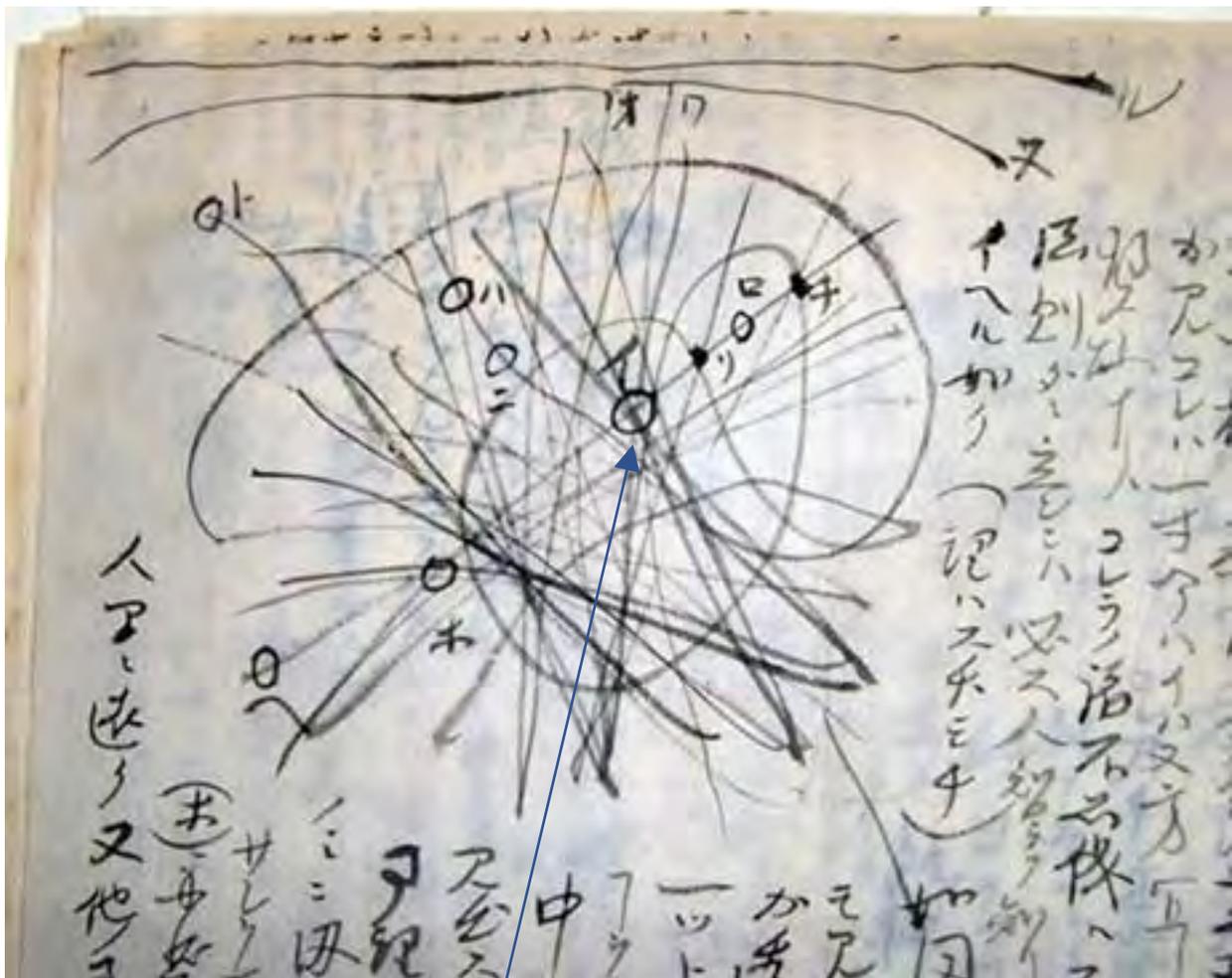
就労率



## 2 一緒にやってみる



### 3 仲間をつくる



萃点（すいてん）とは【南方曼荼羅】  
さまざまな因果系列、必然と偶然の交わりが一番多く通過する地点・・・  
そこから調べていくと、ものごとの筋道は分かりやすい。・・・そこですべての人々が出会う出会いの場、交差点みたいなもの・・・非常に異なるものがお互いにそこで交流することによって、あるいはぶつかることによって影響を与えあう場—それが萃点

（鶴見和子『南方熊楠・萃点の思想』藤原書店）

萃点

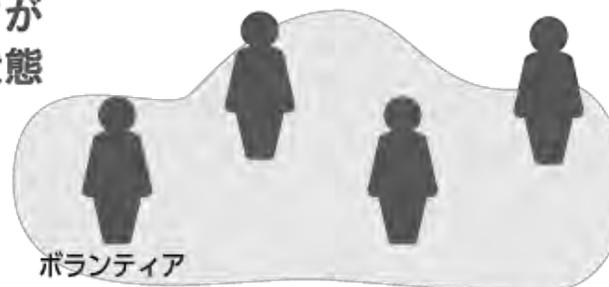
<http://www.aikis.or.jp/~kumagusu/mandala.html>

# 伴走で萃点をつくる

step

1

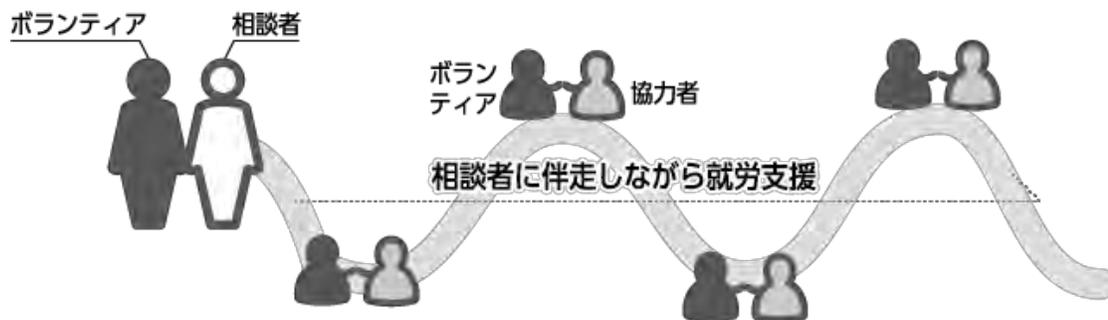
核となるボランティアが  
数名しかいない初期状態



step

2

ボランティアは就労支援の伴走過程で、  
協力者にボランティア登録をお願いします。



step

3

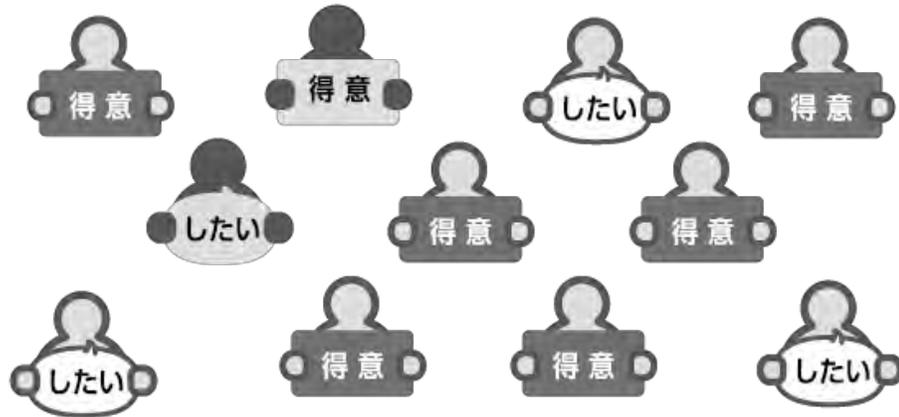
ボランティア登録者全員へメールリストを送付。  
地域の困りごとを共有する土壌をつくる。



# 伴走で萃点をつくる

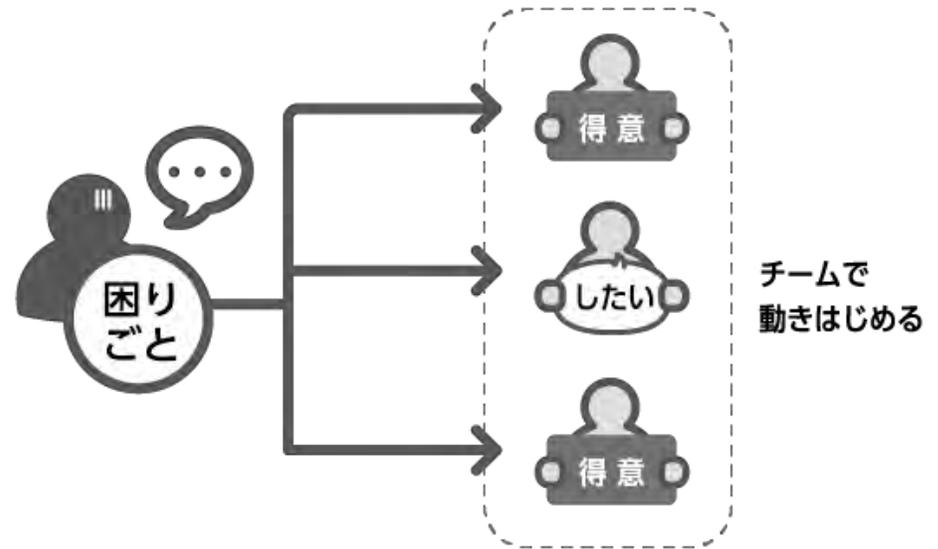
step  
4

ボランティア登録者の得意なこと、やりたいことがわかるように、ボランティア登録者が集まる機会をたくさんつくる。



step  
5

支援する人は「困りごと」に直面したときボランティア登録者の誰に頼めばよいかわかるようになり、「困りごと」を分かち合える。



萃点が自己増殖し、生態系となる

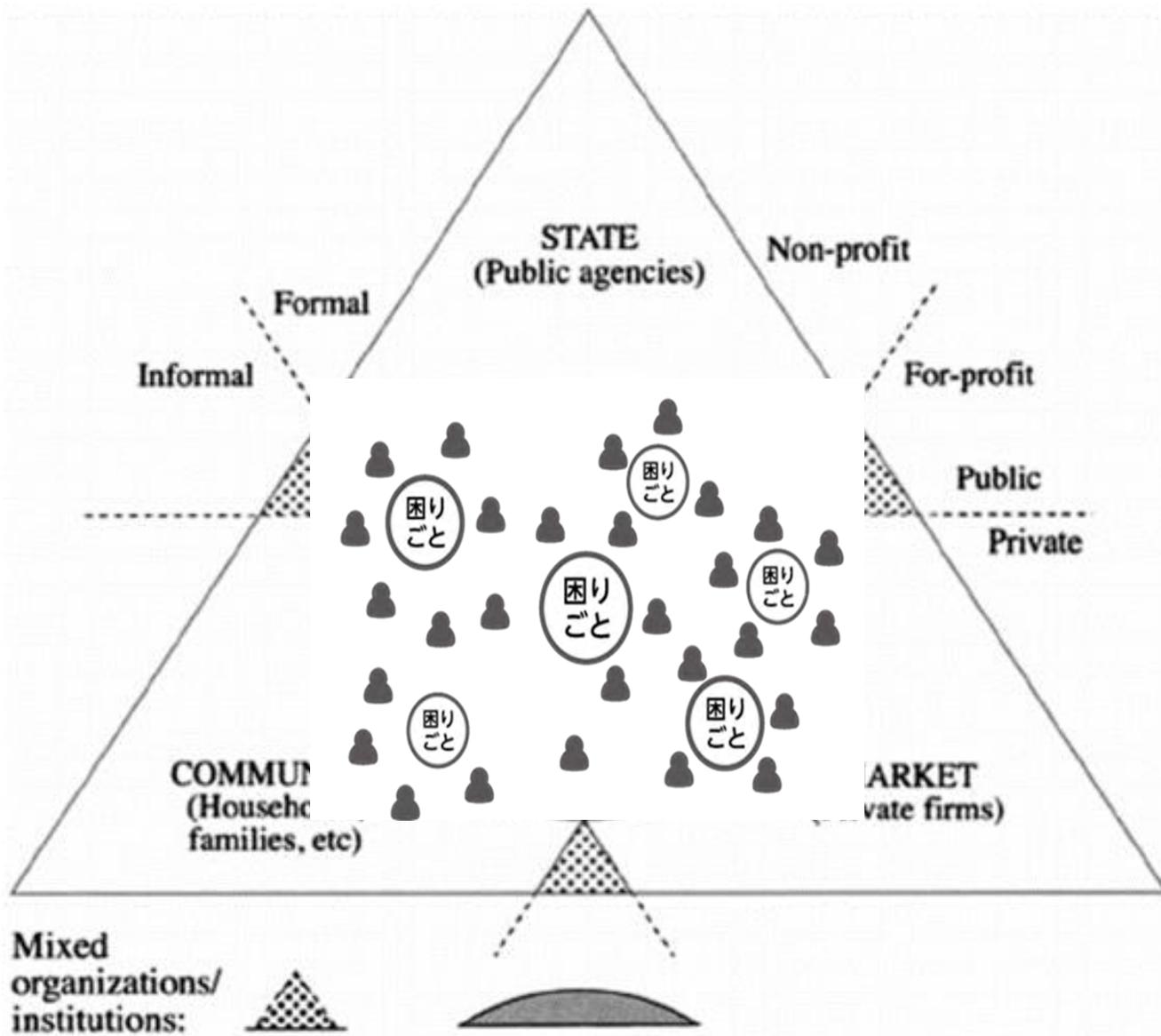


25歳男性：発達障がいがある。幼いころ両親が離婚。父親に引き取られるが、父親はギャンブルにのめりこみ、暴力を振るう。学校へ行くことができず、就職もままならず人間関係を構築することができないまま成人。サポーター（50代女性、会社員）から多くのサポーターさん達を紹介され、幅広い人達と話すことができるようになり自尊心が回復。現在は生活保護を受けつつ、サポーター（30代男性、IT関連企業社員）にIT技術を学ぶ。会話をすることでコミュニケーション能力を向上させ、IT関係の仕事につきたいと話し企業の面接を受ける。今回は不採用だったが、サポーター（30代女性、派遣会社社員）のアドバイスを受け次へチャレンジしている。

19歳女性：定時制高校在学時、母の再婚を機に家庭内に居場所をなくして、自宅の納戸で過ごす。継父から卒業したら生活費は一切出さないと言われ、自力就労を目指す。ボランティア（40代女性、製造業）のもとでアルバイトをしながら、ボランティア（30代男性、製造業）の伴走で、転居を伴う異動のない製造業を中心に見学。さらに、住居探し（70代女性、自営業； 40代女性、自営業； 50代女性、団体職員）や家財の寄付（30代男性、公務員； 40代女性、団体職員）、廃店になる店舗在庫の生活用品や原付の寄付（30代男性、自営業）、名義変更の伴走（30代女性、自営業）、印鑑の寄付（30代男性、製造業）を受けて、一人暮らしを始める。

困りごとを  
萃点として  
わらわらと集まる

隙間を自治する  
隙間をコモニングする



ケアしあうまちをつくる

ミュニシパリズム

杉並区でも

ミュニシパリズム

グローバル化を  
恐れないまちづくり

FEARLESS  
CITIES



## はじめに

### 第1部 ミュニシパリズムとは何か

- 1 私たちにふさわしい未来を
- 2 ローカルレベルで新しい暮らしが始まる
- 3 **ミュニシパリズムによる政治の女性化**
- 4 極右に立ち向かう

### 第2部 組織化のツールキット

- 5 参加型のミュニシパリズム立候補を実現する
- 6 倫理規定と資金調達
- 7 自治体のプラットフォームを組織する: 構造と合流
- 8 自治体変革のためのコミュニケーション
- 9 小さな町や地方のミュニシパリズム
- 10 非国家機関の創設

### 第3部 政策ツールキット

- 11 市議会のラディカル・デモクラシー
- 12 パブリック・スペース
- 13 住宅、ジェントリフィケーション、観光
- 14 コモンズ
- 15 モビリティと公害
- 16 基本的なサービスの再公営化
- 17 透明性と汚職撲滅のために  
共通の利益のための経済
- 19 サンクチュアリ・シティ  
エピローグ: 恐怖を希望に変える

# ミュニシパリズムの3つの根本的特徴

## 1 政治の女性化

第一は、政治の女性化である。政治の女性化とは、家父長的な組織と権力のモデルに疑問を呈し、政治的な議題と組織の在り方の「真ん中」にケア・ワークを置く。

2 具体的なアクションの重視

3 国際的な連帯

### 3 ミュニシパリズムによる政治の女性化：日常の変革

・・・私たちは、フェミニズムとその教えの、政治的な実践の一形態としての中心的な重要性を絶えず主張しなければなりません。なぜなら、これは「フェミニズムなくして革命なし」という古い格言の実践であり、日常生活や常に起こっていることへの介入なくして、真の変革はありえないからです。

・・・

今日、政治の世界で勇気を持つということは、人間の条件の脆弱性と相互依存性を受け入れ、すべての行動の基礎とすることです。また、個人の全能感や、強い者が他の者を支配するという誤った考えに基づいたシステムに反発することでもあります。

政治を女性化するということは、社会の対人関係やコミュニティのニーズを現実的に考えることであり、世界から独立した理想的な強い個人が、実際には他者（通常は女性）のケアに依存していることを決して忘れないことです。

① 地位の平等： 行動の一つ目の基本条件は、政治が行われる空間における男女の平等性です。…例えば、クルド人の自治体運動を考えてみましょう。この運動は、リーダーシップの共有という考えに基づいており、この考えを上層部まで実践し、市長の地位や政府における高い役割が男性だけで占められることがないようにしています。私たち Barcelona En Comúは、この道を歩もうとしています。例えば、私たちの執行部や運営部は男女のバランスが取れた集団であり、市を統治するチームは60%が女性です。

② 発言の平等： もうひとつの重要なステップは、垂直方向のヒエラルキーを減らし、集合的な知性を活用するメカニズムを構築し、少数派に使用されがちな集合的に生み出された知識を探し出すことです。…会議や集会では、男性と女性が交互に発言したり、女性が発言していない場合は、女性が参加していないことに気づかせるためにそう指摘したりするといった習慣を取り入れる必要があるのです。…

③ 役割の平等：第3のステップは、政治的・個人的な責任を男女間で真の意味で分担するための活動です。…家庭内の仕事や介護の役割は、女性と男性の間で極めて偏って配分されており、そのほとんどが女性に負わされています。したがって、女性の政治活動への参加を保障できるかどうかは、社会の構造、人々が自分の時間をどのように整理できるか、女性と男性に割り当てられた社会的役割の不平等に大きく依存しています。…組織の中でできることもあります。例えば、終業時間に会議を行わないようにしたり、子どもも参加できるスペースを作るようにしたり、プレイエリアや子どもに優しいゾーンに組織の資金を投入したりすることができま す。…デジタル参加型のツールや、ビデオ会議やメーリングリストの可能性を活用することも必要です。

④ あらゆる政策におけるジェンダー平等：ジェンダーの平等、そして階級やジェンダー、社会的背景などの観点から求められる民主主義への参加の拡大は、私たちが打ち出す政策のすべてに反映されなければなりません。…バルセロナ市議会の例では、必要に応じて不平等を補うために、ジェンダーや地域への影響を考慮して市の予算を作成しました。また、男性と女性の移動手段の違いを考慮して、市内の交通網を計画しました。…政府が入札を行う際には、ジェンダーパリティ、ワークライフバランス、ペイギャップ、ジェンダーセグレーションに関する条項を、契約を結ぶ企業に盛り込まなければなりません。



Barcelona  
**En Comú**

ケアしあう経済をつくる  
社会的連帯経済

南欧やラテンアメリカを中心に

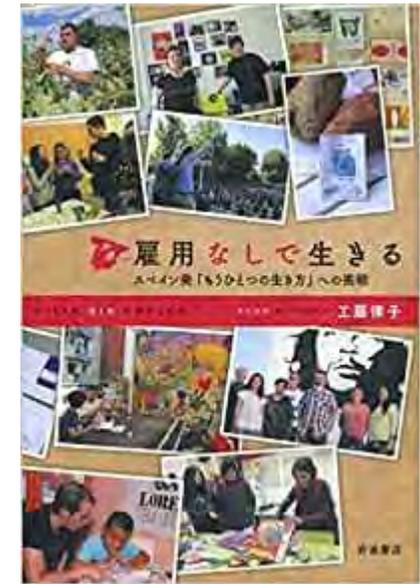
# カール・ポランニーの提起

土地・労働・貨幣の脱商品化＝コモンス化  
土地・労働・貨幣をケアする

土地（＝自然）の脱商品化 → （再）公営化  
労働（＝人間） → 協同組合  
貨幣 → 時間銀行、減価貨幣

ひろくいえば、社会的連帯経済

# スペインの社会的連帯経済



# La mola

- ・マドリード市内で使われているエコ地域通貨。ツアー3日目にLa molaを活用している小学校を見学させてもらい、エコ地域通貨について学んだ。
- ・市役所は携わっておらず地域住民が行っている活動であるためソーシャルマネー。
- ・学校に置かれているごみ箱にごみを捨てた人に無料アプリを使ってmolaが配られる。
- ・捨てられたごみは肥料にして農家など周辺の家庭に配られる。



# Trabensol<協同組合の高齢者向け集合住宅>



組合員みんなのために  
自分のできる事  
は積極的にしていく精  
神

「自分たちのことは自  
分たちで」

# La Fageda ヨーグルト



精神障害や薬物依存症ひきこもりの方がヨーグルト等の製品を作っている

バスクでは有名なヨーグルト

# XES



カタルーニャ州の社会的連帯経済団体をつなぐ組織。現在300団体が加入。加入している団体には財団、社会復帰事業をしている団体、社会的活動をしている普通の企業もある。

# 〈XESメンバーになるための15の基準〉

1. 内部の組織が民主的か
2. 一人ひとりが成長できるか
3. フレックスタイムができるか  
家族の時間がとれるか
4. フェミニストの側面
5. 男女のバランス
6. 労働条件、時間割、サラリーなど  
(5倍以上の給料格差は認められない)
7. お客さんも社会的連帯経済に関心があるか
8. アプリなどを無料で共有しているのか
9. 透明性
10. 給与とか話し合った内容がウェブサイトに出ているか
11. 倫理銀行を使っているか
12. 障害を持っている人も働けるか、マイノリティの人にどれだけ職を提供できているか
13. 資本主義から違う方向へ向かっているか、社会運動と協力しているか、  
資本主義モデルを乗り越える動きがどれだけできているのか
14. 周りのコミュニティにどれだけ配慮しているのか
15. 環境、ゴミの利用、環境問題についての決まりごとがあるか、再生可能エネルギーを使っているか

ケアしあう社会をつくる

身近なところから始めよう